

- 問1 東京などの大消費地の周辺に位置する地域では、その立地条件を活かした農業が盛んです。鮮度が重要視される野菜などを生産し、短時間で市場へ届けることができるこの農業形態を何といいますか。 (2017年 岡山県公立入試 類似)
1. 抑制栽培                      2. 促成栽培                      3. 大規模農業                      4. 近郊農業
- 問2 ある地点から別の地点への移動に伴う地形の変化について、渋谷駅周辺の実例をもとに述べた説明として正しいものはどれですか。 (2017年 佐賀県公立入試 類似)
1. 渋谷駅から南へ流れる渋谷川沿いの道を進み、そこから南西方向にある代官山駅の東側へ移動すると、標高が10m以上高くなる。                      2. 渋谷駅から北東方向へ進み、渋谷川の源流部を横切って代官山駅方面へ向かうと、標高が15mから5mへと低下する。                      3. 渋谷駅から代官山駅にかけては、常に渋谷川の右岸に沿って平坦な土地が広がっているため、目立った坂は存在しない。                      4. 渋谷駅東側の低地から、代官山駅のある南西方向へ移動すると、かつて海であったことを示す標高0m以下の土地が続く。
- 問3 つくば市の人口統計において、昼間人口を夜間人口で割って100を掛けた「昼夜間人口比率」が100%前後で推移している理由として、都市の特徴から考察した説明として最も適切なものはどれですか。 (2024年 神奈川県公立入試 類似)
1. 市中心部には商業施設や官公庁のみが集中し、周辺部に居住者が分散するドーナツ化現象が顕著に現れているから                      2. 都心へ通勤する住民が極端に多いため、夜間人口が昼間人口を常に上回る典型的なベッドタウンとなっているから                      3. 研究機関や大学が集積して市外からの通勤・通学者が多い一方で、鉄道網の整備により居住する住民も増えているから                      4. 鉄道開業以降、市外への通勤者と市外からの通勤者の双方が激減し、市内だけで経済活動が完結するようになったから
- 問4 日本の主な工業地帯・地域の特色を説明した次の文のうち、京浜工業地帯について述べたものとして正しいものはどれですか。 (2017年 山口県公立入試 類似)
1. 広大な敷地を活かした自動車工業の集積が著しく、日本最大の工業出荷額を維持し続けている                      2. かつては官営八幡製鉄所を中心に鉄鋼業で栄えたが、近年ではIC（集積回路）の生産が盛んになっている                      3. 中京工業地帯に次ぐ全国第2位の出荷額を誇り、かつては繊維工業が盛んであったが現在は化学や鉄鋼が中心である                      4. 鉄鋼、化学、機械などの重化学工業がバランスよく発達し、出版・印刷や情報サービス業の割合が高い
- 問5 1980年から2020年にかけての人口増減を示した資料において、東北地方や四国地方では多くの県で人口が減少しているのに対し、関東地方や近畿地方では人口が増加傾向にある府県が目立ちます。このような地域間での人口動態の差が生じている主な要因として、最も適切な説明を選びなさい。 (2022年 福岡県公立入試 類似)
1. 農村部において出生率が急上昇し、都市部を上回る自然増が発生しているため。                      2. 地価の安い山間部へ工業地帯が移転したことで、内陸部での雇用が大幅に拡大したため。                      3. 政府による地方分散政策により、すべての都道府県に大企業の経営拠点が均等に配置されたため。                      4. 三大都市圏において、進学や就職を目的とした地方からの人口流入が続いているため。
- 問6 ある年の統計において、東京都の社会増加率は0.80、自然増加率は0.05でした。その4年後の統計では、社会増加率が0.66と依然として高いものの、自然増加率はマイナス0.01を記録しました。この2つの時点のデータを比較して読み取れる、東京都の状況として適切な記述を選びなさい。 (2017年 沖縄県公立入試 類似)
1. 自然増加率の低下は東北地方で見られる傾向とは異なり、東京都では出生率が急上昇した結果、死亡数が上回ったことを示している。                      2. 自然増加率がマイナスに転じたことで、東京都の人口増加は他地域からの流入（社会増加）に依存する構造がより鮮明になった。                      3. 社会増加率が自然増加率よりも高い状態は解消され、自然増加率が東京都の人口動態における最大の決定要因となった。                      4. 社会増加率が低下傾向にあるため、東京都では沖縄県などのように自然増加を主軸とした人口維持政策に切り替わった。
- 問7 群馬県沼田市付近の地形図から読み取れる情報について説明した次の文章のうち、地形の成り立ちや特徴と矛盾しない正しい説明はどれですか。なお、この地域を流れる片品川は北東から南西に向かって流れています。 (2022年 兵庫県公立入試 類似)
1. 沼田駅付近から北東にある沼田城跡（公園）に向かうには、等高線が密集している急な斜面を登る必要がある。                      2. 洪水による浸水リスクを避けるため、沼田市役所や警察署などの主要な公共施設はすべて片品川沿いの低地に集中している。                      3. 地形図上の等高線の間隔が非常に広がっている場所に、沼田駅と沼田城跡を結ぶ急峻な崖が存在している。                      4. 片品川は標高の高い南西方向から、標高の低い北東方向に向かって、段丘の斜面を駆け上がるように流れている。
- 問8 鎌倉市に見られる「亀ヶ谷坂切通」のような「切通」が、この地域の歴史において重要な役割を果たした背景と、地形図から読み取れる特徴について述べた文として、最も適切なものを選びなさい。 (2023年 東京都公立入試 類似)
1. 三方を山に囲まれた鎌倉の防衛機能を保ちつつ、外部との交通を確保するために山を削って造られたため、道の中央で標高が最も高くなる。                      2. 海沿いの平坦な土地を拡大するための埋め立て資材を採掘した跡地を道として利用したため、周辺の住宅地よりも標高が低くなっている。                      3. 敵の侵入を遅らせるために複雑な迷路状の堀として造られたため、断面図で見ると等高線が一点に集中し、全区間で標高差がない。                      4. 大規模な耕作地を確保するために山の斜面を階段状に削って造られたため、出発地点から到着地点まで標高が階段状に変化する。
- 問9 東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県鉄道の鉄道利用率が全国平均の23%を大きく上回り、40%から60%近くに達している統計結果があります。このような公共交通機関への依存度が高い地域において、大地震などの災害により鉄道が長時間停止した際、自宅が遠いために徒歩での帰宅が難しくなる人々を何と呼びますか。 (2019年 岩手県公立入試 類似)
1. 帰宅困難者                      2. 避難指示対象者                      3. 昼間人口減少者                      4. 仮設住宅入居者
- 問10 日本の河川について述べた次の文のうち、利根川の特徴を正しく説明しているものはどれですか。統計上の数値に基づき、適切なものを選びなさい。 (2019年 岩手県公立入試 類似)
1. 北海道で最も流域面積が広く、石狩平野を流れて日本海に注ぐ日本で2番目に流域面積が広い河川である。                      2. 東北地方で最も長い河川であり、岩手県から宮城県へと流れ、太平洋に注いでいる。                      3. 日本で最も長い河川であり、その長さは約367キロメートルに及び、長野県から新潟県へと流れている。                      4. 日本で最も流域面積が広く、その面積は約16,840平方キロメートルに達し、関東平野を流れている。
- 問11 江戸時代の古地図と現代の地形図を比較する学習において、現在の特許庁や外務省などが立地している江戸城西の丸の東側のエリアに注目しました。当時のこの場所の主な土地利用の形態として、古地図から読み取ることができるものとして最も適切なものはどれですか。 (2018年 徳島県公立入試 類似)
1. 果樹園                      2. 針葉樹林                      3. 広葉樹林                      4. 茶畑